

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
令和6年度第2回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第23条の規定に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されている。

委員の任期は2年、委員数は13名で、うち1名は一般公募により選出されている。会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催している。

【参考】博物館法

第23条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

令和7年3月7日（金）14時00分～15時30分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

樋口正信委員（委員長）、浅野直俊委員、荒木郁子委員、川股圭之委員、坂本和弘委員、高尾戸美委員、藤咲富士子委員、矢崎和子委員、吉富友恭委員、鷺田美加委員

※事務局出席者

横山一己館長、菅野弘司副館長、江原章子管理課長、岸川将史企画課長、国府田誠一教育課長、池澤広美資料課長、小池涉首席学芸員、栗栖宣博主査、井土ひろみ係長、田宮奈津美主任、川村詩音主事

5 議事概要

(1) 会議の成立について

本日の協議会は委員13名中10名の参加があり、会議は有効に成立する。

(2) 議案説明（事務局）

○議題

- ① 令和6年度後期事業の報告について
- ② 令和7年度事業の計画について
- ③ その他（中期計画2025について）

(3) 質疑・意見交換

○A 委員

- ・ 建物の老朽化、野外の木々の老木化について言及があったが、利用者目線での懸念事項はどういった部分か？

○事務局

- ・ 目立つのは雨漏り。経費がかかるためすぐに対応が難しいものも多く、対処法でしのいでいる。建物自体は、新耐震基準で設計されているので、耐震性は確保されている。
- ・ 野外では、老木化にともなう倒木の危険が高まっていること。計画的に伐採を行うなど、安心して利用いただけるよう整備をすすめていく。

○B 委員

- ・ ジュニア学芸員養成講座の募集について、応募状況や、認定された子たちのその後の活動状況などについてお伺いしたい。

○事務局

- ・ 自然科学、自然史系に興味関心の高い中高生が応募してくる。県内外問わず反響があり、人気の事業。例年 15 名ほど認定。応募は 30 名前後のことが多い。
- ・ ジュニア学芸員に認定されてからも、館のイベントの手伝いをしてくれたり、学芸員に指導を受けながら自分で研究を続けたりする方もいる。なかには研究者や、当館の MC になった方もいる。

○B 委員

- ・ 博物館が好きな子にとっては、学芸員は憧れの存在。人材育成という点で素晴らしい事業だと思う。今後も期待している。

○C 委員

- ・ TX 沿線地域では、柏の葉キャンパス、流山おおたかの森近辺の地域に子育て世帯が多い。これらの地域は自然博との親和性が高く、客層とマッチしていると感じる。さらに、今まではあまり交流のなかった地域かと思われるが、八潮、三郷などの居住者も博物館のことを「最近知ったが、意外と近く、良い施設」と認識し始めているように聞く。TX 沿線の広報を強化されている効果もあると思う。

○事務局

- ・ TX 沿線地域の人口増、ファミリー層の増は認識しており、ぜひ取り込んでいきたい地域と考えている。これまで、県外では柏、流山あたりまではチラシの配布など広報を行ってきたが、今後さらに八潮、三郷などへの広報にも力を入れていきたい。

○D 委員

- ・ 入館者数の伸びに勢いがある。特に 5、6 月や 10 月以降が非常に伸びている。SNS の効果なども大きいのでは。各企画展でフォトスポットを意識して設置している

成果だと感じる。

○事務局

- ・ お客様のSNSの投稿、口コミがさらなる来場者増につながっていると感じている。
- ・ ありがたいことに通常閑散期にあたるこの2月も、多くのお客様にお越しいただいた。

○D 委員

- ・ 昆虫目録をお送りいただき、拝見したが非常に良くまとまっている。昆虫研究の第一人者から在野の研究者、若手研究者まで幅広く多くの方が携わっていて、博物館がハブとなりこのようにとりまとめられ、素晴らしい成果だと思う。今後、書籍の発行もあるとのこと、期待している。

○E 委員

- ・ 本日来館する際に電車内、駅構内でポスターやサイネージでたびたび自然博物館を目にした。多くの人が行き来する場所への露出、知名度や認知度向上に大きな効果があると思う。
- ・ 通常企画展の切り替え時期で閑散期にあたるこの時期に、多くの来場があるのは今回の企画展がロングランで続いていることも一因では。多くの博物館が2月は集客が難しい中、これだけ集客しているのはすごいことだと感じている。
- ・ 中期計画について、「誰もが楽しめる」を柱に掲げている。子供や障がい者への配慮はもちろんだが、低所得者層へのアプローチに何かいい手がないかと思うが難しいところ。
- ・ 外国人対応はどうか。地元・近隣地域には定住外国人も多い。

○事務局

- ・ インバウンド需要のみでなく、定住外国人への対応も必要だと思っている。
- ・ 今年度、総合パンフレットを複数言語で作成することとし、3月末から館内設置予定。

○E 委員

- ・ 多言語化を検討する際、どの言語でパンフレットを作るかも重要になる。
- ・ 博物館近隣地域には人口の1割程度、外国人が居住しており、ベトナム、ブラジルなどが多いようだ。地域のためのミュージアムパークとして、ベトナム語、ポルトガル語のパンフレットがあると良い。

○F 委員

- ・ 県外利用者が多い。チラシを配布しているという話もあったが、具体的には。

○事務局

- ・ 千葉方面では野田、柏、流山あたりまでは、小学校4年生全員に行き渡るよう配布している。
- ・ 学校団体の遠足利用も多い。遠足で来てくれると、その子どもが家族と来たり、さらに、成長して今度は自分の子どもを連れてきたりと、好循環がみられる。

○F 委員

- ・ 30 周年の企画展が好評のようす。アンケート結果では、リピーターが多いということだが、企画展の入れ替え前後でのリピート有無を把握されているか？

○事務局

- ・ 企画展アンケートではあくまで過去に来たことがあるかどうか、という聞き方をしており、今回の展示替えの前後でのリピート有無のデータは取っていない。

○F 委員

- ・ マスコミ、プレスへのアピールが良い。テレビ、ラジオへの露出などは大きな広報効果があると思う。今後も PR を続けてほしい。

○OG 委員

- ・ 本日も多くの子どもたち、団体が来館しているようで、大変賑わっている様子がかがえる。
- ・ 走査電子顕微鏡もを見せていただき、博物館の進化、日頃の館のスタッフの方の努力に感服する。
- ・ 昆虫目録をお送りいただき、ありがたく思っている。子どもたちは虫が大好きで、園でも飼育している。今後刊行予定の「茨城の昆虫たち」も楽しみにしている。
- ・ チラシの話があったが、現在は登園時の連絡などもアプリを使っているところが増えていると思う。このアプリでもチラシなどの手紙配信機能がついている。各家庭への情報発信が容易に行える。

○事務局

- ・ アプリでのチラシ配信について、先行してつくば市の全小中学校では実施を始めたところ。紙のチラシにも良さがあり、できれば続けていきたいが、学校教職員の負担もあるため、データ配信の流れは今後も増えていくだろうと考えている。

○A 委員

- ・ 水戸市内も原則、チラシはデータ配信が基本になっている。紙チラシの配布は市教育委員会での承認と、クラスごとに仕分けをして納品することが条件になっている。
- ・ データ化は保護者からも賛否両論の意見があるが、すべての情報がアプリから一元化して見られる点が便利という声もある。確実に家庭に届けられる点、これはアプリのメリットだと思う。

○H 委員

- ・ コレクション機能は重要。収蔵庫スペースの問題について、どのくらい受け入れができる状況か。また、受け入れ制限などは行っていくのか。
- ・ また、資料のデータ化や共有の進捗はどうか。

○事務局

- ・ 収蔵庫の状況は、植物・動物はほぼ満杯、地学は少しだけ余裕がある状態。
- ・ 自然発見工房付近に野外倉庫を整備し、温湿度管理が厳しくないものはそちらに

移動させ、収蔵庫のスペースを確保していく。

- ・ 受け入れ基準については、資料のデータがきちんと整っているものを優先して受け入れていく。茨城県内のもの、学術的価値が高いものも優先。すでに大量の標本が集まっている分野もあるため、重複するものは標本セーフティネットを活用したり、他館を紹介したりしている。
- ・ 資料のデータ化については、画像も含めて掲載していくのが理想だが、登録がなかなか追いつかない状況であるのが課題。

○I 委員

- ・ 入館者数の増については、企画展、イベント、広報の良さが響いているのではないかと。新聞、ラジオなどメディアへの露出が多い。メディアへの広報で、工夫していることがあれば聞きたい。

○事務局

- ・ 今までのつながり、関係性を大切にしている成果だと思っている。今年は特に NHK 水戸放送局で企画展を多く取り上げていただいた。
- ・ 取材はなるべく受ける気持ちで対応している。関係を保ち、継続して取り上げていただく努力をしていく。

○I 委員

- ・ 東京ドームでのうんち展の開催、とても楽しいニュース。都内での開催、外部との連携は館の広報効果が絶大だと思う。この企画に至った経緯は？

○事務局

- ・ 館長のこれまでの人脈がすべてと言っていい。初めての事例だったので、実現に向けては、関係機関との調整など苦労した部分もあったが、ここまでこぎつけることができた。委員ご指摘のとおり、都内での当館の PR に大きな効果が期待できる。準備も佳境に入っているが、主催者と協力しながら進めているところ。

○I 委員

- ・ 館の公式 Youtube で素敵な動画が多数掲載されている。X や Facebook にもリンクを貼って動画に誘導してみたい。

○J 委員

- ・ 中期計画の今後の進め方やスケジュールは。

○事務局

- ・ 本日までご説明させていただいた内容で、方向性がよろしければこれから本文の作成に取りかかる。3 月中にまとめていきたい。また文章案を提示させていただくので、ご意見があればお聞かせ願いたい。

以上